

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター エンジョイウェルヴィレッジ		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 20日		2025年 12月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 15名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人理念『子どもたちの圧倒的な笑顔を創る』を基に、支援方針のひとつである『子ども主体』を、常に従業員が意識をして、日々の療育を行っていること。	管理者や児童発達支援管理責任者が中心となり、『誰が主体になっているか?』と、従業員が意識できるような声を掛けたり、従業員同士で話し合ったりできる場を設けている。	毎年事業所のテーマを設け、それに向けて自身の目標を立て、中間面談を行うなどをして、さらなる理念に沿った支援が行えるようにしていく。
2	子どもたちが自然に取り組むことができるような遊びや活動の立案を、チームで考えていること。また、その日に振り替えることで、PDCAサイクルを意識できていること。	従業員の経験を活かせるように、また、意見を言いやすい雰囲気作りを意識している。	従業員が提案した遊びや活動の振り返りを重点的に行っていくことで、利用者様へいろんな遊びや活動を提供できるようにしていく。
3	定期的に、保護者会等を行っており、保護者支援に力を入れていること。	保護者のニーズに合わせた内容の保護者会を開催できるように意識している。また、保護者会終了後にはアンケートを実施し、次の保護者会に活かしていけるようにしている。保護者と子どもが触れ合えるようにし、給食試食会を開催したり、普段の遊びや活動と一緒に楽しめるような内容にしている。	保護者会への参加率が高く、保護者会の時間は兄弟児の託児も行っているが、場所の確保が難しい時もあるので、様々な部屋を使用できるような工夫を検討していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の園に通園していない利用者様が、地域と交流する機会が少ないこと。	事業所から徒歩圏内に園がないこと。また、地域に事業所が浸透されていないこと。	市と連携をとり、交流できる機会を作っていく。また、事業所への理解がある園と連携をとり、交流する時間を設けてもらうようにしていく。
2	安全面で、平時の対応が保護者様に共有しきれておらず、不安感を与えていること。	保護者会で共有しているが、説明が不十分であること。また、保護者会を欠席した保護者への周知が仕切れていなかったこと。	保護者会で説明をするとともに、個別支援計画の同意説明の際にも説明をしていく機会を設けるなど、全員に説明と理解を得ていくこと。
3	事業所内で定期的な研修時間を確保できない。	事業所の特徴もあり、従業員全員で研修を受講する機会がもちにくいこと。	グループを分けたり、録画視聴をしたりするなどをして、全員に受講機会を提供していく。